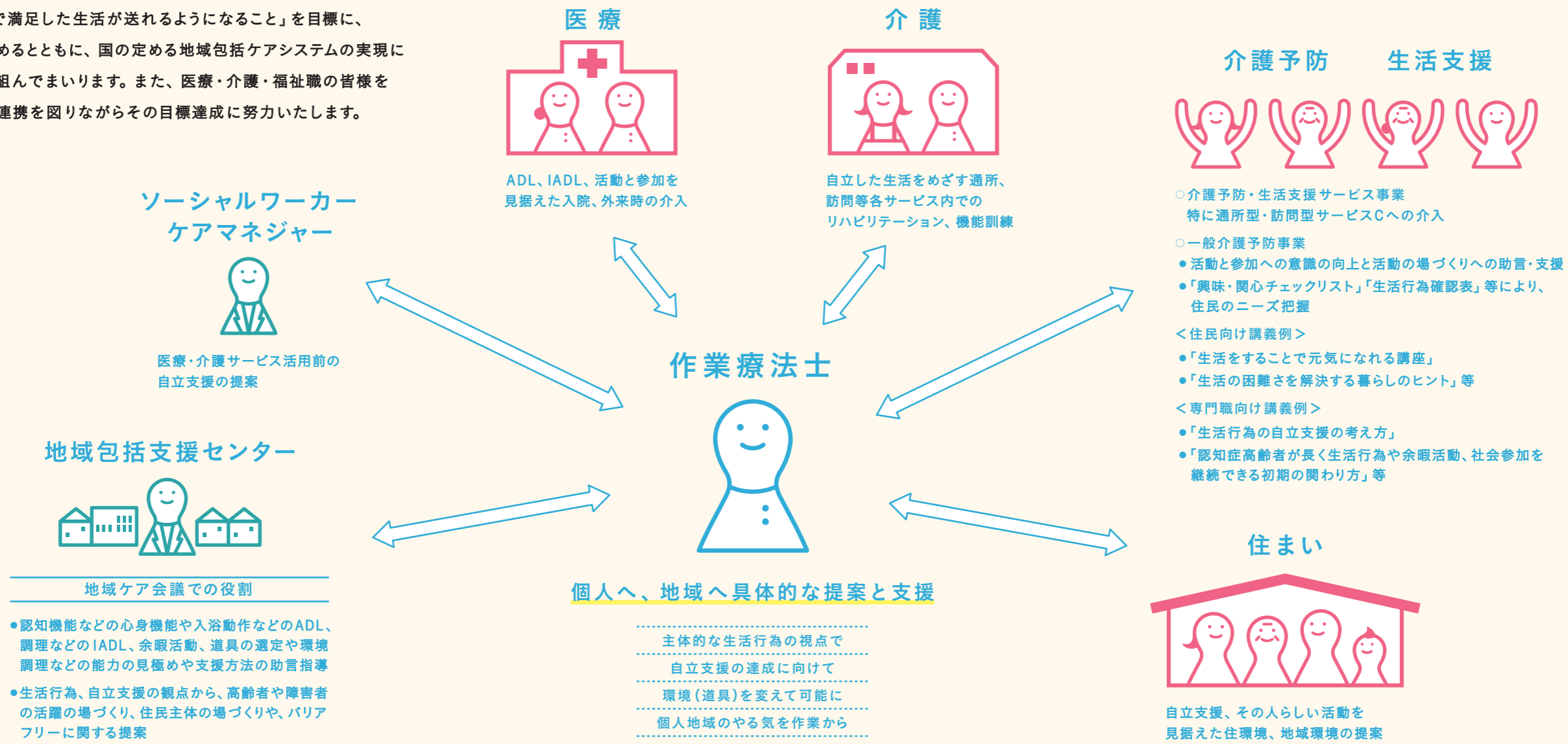


# 地域包括ケアシステムにおける作業療法士の役割

一般社団法人 日本作業療法士協会および都道府県の各作業療法士会では、「国民の皆様が健康で満足した生活が送れるようになること」を目標に、会員の資質向上に努めるとともに、国の定める地域包括ケアシステムの実現に向けて積極的に取り組んでまいります。また、医療・介護・福祉職の皆様をはじめ地域の皆様と連携を図りながらその目標達成に努力いたします。



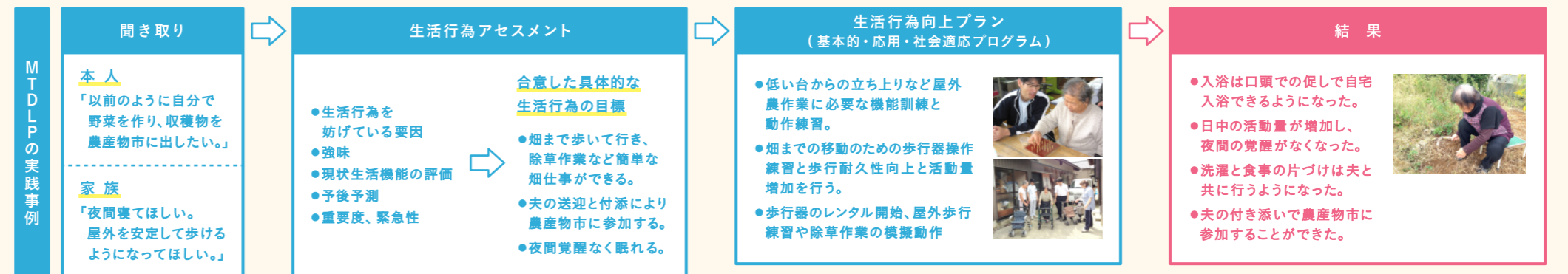
## 生活行為向上の推進

作業療法士は、生活行為向上マネジメント(MTDLP)の実践で生活行為向上を図り、個人・地域の「自助」「互助」を高めます。

協会は、国の要請により自立支援型アプローチの研究から、MTDLPを開発しました。

人が望む大切な生活行為(作業)に焦点を当て、自立支援を図ります。本人の心身機能のみでなく、活動、社会参加につなげることを重視します。

「家事や畑作業を再開し、介護負担が軽減した認知症の人」 [介入のポイント]  なじみ深い作業などの介入  長年の楽しみであった農作業や家庭内役割の再開  家事を再開することで精神面での活性化が図られ、生活リズムを取り戻す  
年齢：77歳 性別：女性 疾患名：脳血管性認知症・変形性膝関節症・脳梗塞発症から6週間の入院を経て自宅退院



MTDLP実践者、MTDLP指導者を地域に増やすプロジェクトを展開しています。  
MTDLP = Management Tool for Daily Life Performance

支援者をつくる

- ケアマネジャーに歩行器の貸与手続きを提案
- 夫に対して活動能力の改善を説明し、家庭での家事や屋外歩行の付き添いに理解を求める。

